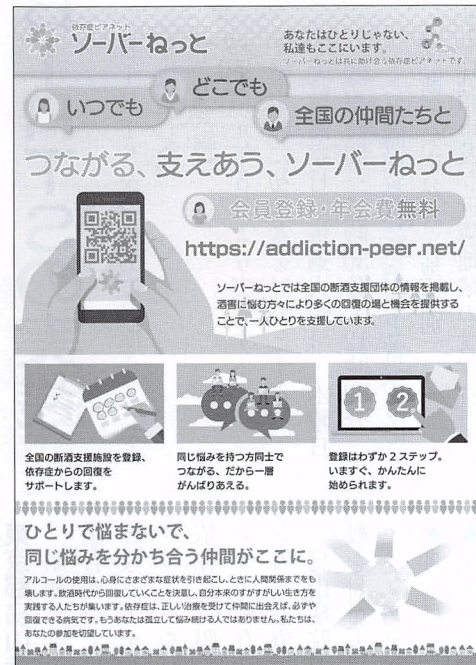


いつでも どこでも 全国の仲間たちと
つながる、支えあう
「ソーバーねっと」普及拡大へ
<https://addiction-peer.net>
共に助け合う依存症ピアネット

現在情報伝達手段として広く普及している、インターネット、スマートフォンに注目し、その情報手段の一つ「ソーバーねっと」について今紹介する。

断酒会の例会情報はいろいろなものがある。それらは各分野において十分に活用されており、今後とも必要不可欠なものであることには変わりはない。しかし、時代やアルコール依存症患者の変化に合わせて対応すること即ち多様な情報発信手段を準備し、広く多くの人々に情報を発信することも断酒会にとって大切な事である。

「ソーバーねっと」は、全国の断



チャラシ(表)

「**ねっと**」は**当事者の人たちが主役のサイト**です。いまだ孤立して悩んでいる多くの当事者たちが、回復に必要な「つながり」を手に入れるため、「ソーバーねっと」を活用して頂ければ幸いです。

次に内容については以下の通り。

酒支援団体の情報を分かりやすく掲載し、酒害に悩む人々に、より多くの回復の場と機会を提供することで、一人ひとりを支援することを目的として立ち上げられた情報サイトである。既に2018年6月に地域限定で公開されている。

2015年から自助グループに関する情報を発信するためのウェブサイトを開発についてその必要性を訴えてきた香川県高松市の海野順先生に尋ねた。

「connection」

嗜癖（アディクション (addiction)）の反対語は、つながり（コネクション (connection)）。依存症からの回復に必要なことは、それを理解して、応援してくれる人たちとつながることです。しかし、自助組織を知らない当事者にとっては、どんな場所、どんな風に開催しているのか、まるで想像することができません。そのような人々たちから聞こえてくるのは、

「真つ暗な夜に、行ったことのない場所（例会場）までたどり着けるか不安だ」、「行った方が良いと思っても、イメージが湧かずに躊躇してしまふ」、「いざ行ってみたものの、例会が開催変更・休会となっていた」といった声です。

全国に107万人もいると推計されるアルコール依存症者のうち、治療中の人はわずか5万人弱。専門病院にたどり着くだけで「奇跡」だと言われるにもかかわらず、あと一歩、自助組織への参加を迷いながら失敗してしまう当事者たちに出会いました。もともとたくさんの人たちが、気軽に自助組織へアクセスできるためには何をすべきか。つながりを重視するのであれば、つながりやすい環境を作っていくなければなりません。初めて参加するときの心理的ハードルを下げ、アクセス性を高め、もっと自助組織を身近に感じてもらうためのアイデアが必要です。「**ソーバーねっと**」は**当事者の人たちが主役のサイト**です。いまだ孤立して悩んでいる多くの当事者たちが、回復に必要な「つながり」を手に入れるため、「ソーバーねっと」を活用して頂ければ幸いです。

次に内容については以下の通り。

- ・サイトの利用はすべて無料。（会員登録・年会費無料）
 - ・各地で開催されている例会・ミーティング、研修会の情報が掲載されている。
 - ・断酒継続に役立つ、さまざまな情報が掲載されている。
 - ・全断連加盟全国断酒会行事予定一覧リストも既に掲載している。
 - ・「ソーバーねっと」内の各団体情報ページにおいて、公式ホームページへのリンクを掲載できるので、既にあるホームページへの訪問を促すこともできる。
 - ・「お知らせ」機能を活用すると簡単に情報発信ができるので、各断酒会にとって最新情報を周知する手段となる。
 - ・全国各地の具体的な例会・ミーティング情報が一元化されるので、広く一般市民が開催情報にアクセスしやすくなっている。精神保健福祉センター、保健所、医療機関、市町村等の酒害相談の窓口にも「ソーバーねっと」を紹介することやチャラシを配布することで、断酒会にあまり馴染みのないスタッフや支援者でも断酒会を紹介しやすくなっている。特に、スマホ等で会場のイメージ写真や地図を確認できることは、関心があっても断酒会の垣根が高く、例会等に参加を躊躇している人にとって有効ではないだろうか。
- では、各断酒会が情報を公開するにあたって、具体的に提供する資料の内容はどのようなになっているのか、